

第1回横浜国大ホームカミングデー (HCD) を終えて

HCD 実行委員 古賀 義雄 (昭和 43 年電化卒)

昨年 11 月 11 日に第一回横浜国大ホームカミングデーが開催されました。朝から雷鳴が轟き、雨の中での開催でしたが、予想や申込を上回る同窓生が集まり、楽しい一日を過ごすことが出来ました。

本年度は経済系同窓会「富丘会」が幹事役を勤め、工学部の同窓会からも数名の、応化同窓会から樋口会長が、電化材化同窓会から古賀が実行委員として参加いたしました。私は、分散会場への映像配信担当になり横浜国大が横浜市大との間で国内（世界？）最初に実証した LAN によるハイビジョン放映を試みましたが費用の点で断念、開催日直前には DVD 作成責任者を兼任することになりました。録画に当たって会場となる経営学部、教育人間科学部の教室を工学部の実行委員と下調べしま

した。また教室や体育館では音声収録が難しいのでビデオカメラメカに相談し準備もしたのですが、教室の設備は移転当時のままの古いアンプで取扱説明書もなく音声を取り出すことは不可能でした。他の設備も同様に「セラミックのシーズから実用化への道程」についてご講演頂いた米屋先生はスクリーンをも研究室からご持参になりました。文部省からの予算も年々削られる中、卒業生が大学に何らかの支援をしていかないと母校の地盤沈下が心配と言う気持ちを強く持ちました。

さて、当日の様子について実行委員会の報告と岡松 HCD 実行委員長からの報告書（第 1 回 HCD 報告と来年への提言）を許可を得て転載いたします。写真は実行委員会撮影のもので、

第 1 回横浜国大ホームカミングデー 11 月 11 日に開催

【概要】 第 1 回横浜国大ホームカミングデーが、大学と連合 3 同窓会の共催により開催された。初回の PR 不足かつ当日雷鳴轟く雨天にもかかわらず、871 名の卒業生と教職員と学生が参加。退任された懐かしい先生方 24 名も参加され盛り上げていただいた。卒業生には初めて常盤台キャンパスを訪れた人も多く、ゆたかな森の中で充実した一日を過ごされ、ほとんどの方々が来年も訪れて新たなレクチャーや研究室公開や懇親パーティーにおける交流を楽しみたいとの感想を述べられていた。

【当日の行事内容】

- ・基調提言「横浜国大の目指す方向」（飯田学長）
- ・卒業生代表 3 名と飯田嘉宏学長によるパネル討議「横浜国大に期待する」（杉田亮毅日経新聞社社長、亀井信寧千代田化工建設副社長、平出彦仁神奈川県教育委員会委員長、司会 浅野純次経済倶楽部理事長）
- ・レクチャーセッション 9 テーマ：「レクチャーコンサート」「健康トレーニング」「少子高齢化と経済」「変革のための経営戦略」「新しい会社法と企業社会」「建築の耐震設計に関する話題」「自動車の環境と安全への取組み」「少子高齢化の世界に貢献する情報通信技術」「セラミックのシーズから実用化」
- ・研究室公開：工学系 6 研究室・環境情報系 5 研究室・横浜国大発ベンチャー展示
- ・懇親パーティー：第一食堂、ジャズライブと福引を含む
- ・子供向けスポーツ教室「ランニングの基本」（雨天につきグラウンド管理棟内で実施）

【当日のビデオ録画 DVD 実費頒布】

基調提言・パネル討議・レクチャーセッション・研究室公開のビデオ録画資料を DVD として実費頒布します。大学総務課あるいは各同窓会にお申込願います。

【来年の予定】

本イベントは毎年恒例として 11 月に行う予定です。来年春先には 第 2 回 HCD 実行委員会からその内容が広報されますので、是非ご参集ください。

第1回HCD報告と来年度への提言

実行委員長 岡松 正憲（昭和39年経済卒）

今回の反省点は種々ありますが、まずは盛会に無事故でHCDを終えることが出来ました。ご尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

来年度実行委員会への引継を兼ねて、報告と提案を申し上げます。

【第1回HCDの報告】

1. 参加者 871 名、懇親パーティー参加者 602 名、実行委員 62 名
2. 会計報告
寄付などから生じた本年度収支差額 81 万円を、HCD システム強化（セキュア化、申込者データ自動即時共有など）、並びに来年度実行委員会の準備費用として繰り越したいと存じます。
3. 各行事の集客について
 - ①基調提言パネル討議、レクチャーコンサート、懇親パーティーは ○
 - ②講演会は雨天、パネル討議時間延長のため △
 - ③研究室公開は 遠距離、雨天のため × → 来年は小型循環バスを検討
4. 恩師を囲む会について
 - ①今回は、まず高齢の先生方との出会いの場をつくることと、PR 期間不足をカバーするため恩師と教子のネットワークで集客する「恩師を囲む会」を推進し、それなりの目的を達したが。
 - ②次回からは、名誉教授とその他の退任教授、現役教授を問わず、出席された先生方と卒業生が交歓するようにし、「〇〇先生を囲む会」というように個別対応しないで、もっと緩やかな先生方と卒業生の集団的な交歓の場とする。そのようにする方が先生方への PR もしやすし、恩師の亡くなられた卒業生も参加しやすいように思われる。
5. 運営態勢について
 - ①本年は、準備期間が短く、「実行委員長および事務局のリードで進めざるを得なかったが、来年はより組織的対応が可能。
 - ②当日の運営上の問題点は、パネル討議の時間延長についての事前打ち合わせが不足していたこと。幸い、広沢提案で移動時間を 10→15 分に長くしていたことがせめてその被害を小さくした。
6. 実行委員会発足当時の主な討議について
 - ①大学主催か、大学と同窓会との共催か
 - ・教員、職員、卒業生、学生夫々の得意を活かすことを心がける。
 - ・例えば、サービス業や営業部門育ちは、個々の顧客満足を最大にする工夫が得意である。来場者の

多くはそれを求めている。

- ・学内のことは、もちろん教職員しか分からない。
- ・HCD の性格上、大学主催が筋かとも思うが、第 1 回を経験して、大学（教職員）と同窓会（卒業生）の共催が良いと思う。

- ②HCD の目的について、「横浜国立大学の現状と目指す方向を語り合う場」「恩師との出会いの場」「卒業生向けの生涯教育の壕」の実現を目的とすることとした。
- ③HCD における学生の位置づけについて、学生は有志が実行委員や当日ボランティアをつとめるが、一般には講演や研究室公開や懇親パーティーに一般卒業生に準じた立場で参加することとした。

【次回に向けての提言】

1. 1 月には PR 内容を固めて、春先から PR をはじめる。
本年度 HCD については、5 月から検討開始し、8 月末に行事内容を確定し PR を開始したが、来年度は、4～5 月の各同窓会報に間に合わせる為、2 月には概要を固めるスケジュールを提案したい。
横浜国大の教授陣・卒業生のユニークな活躍をみなで情報共有するよう幅広い行事内容を展開されることを期待したいと思う。
2. 年間を通じての HCD 専任事務局態勢を提案したい
 - ①今回、仁村総務係長などにご尽力いただいたが、次回は例えば、
 - ②職員 OB が週 3～5 時間 午後、教育文化ホール連携ルームに常駐。
 - ③その業務は、HCD 関係では、実行委員長ならびに総務課長のもとで HCD 関係業務、卒業生からの問い合わせ対応（今回、ホームページからの参加申込を中心にすべく計画したが、電話やファックスによる申込の希望が多い）、講演 DVD の申込受付。併せて、各同窓会との一般的な連絡業務・卒業生からの大学向け問合せ窓口対応。
3. 運営態勢について
 - ①講演会場設定やビデオ録画あるいは備品流用をスムーズにするため、各部署の職員を事務局メンバーに加える。
 - ②実行委員会や HCD 当日の職員の時間外勤務扱を検討願いたい。
 - ③第一食堂の音響設備改造、構内画面配信インフラの増強、HCD 情報システム強化（セキュア化された申込者データ自動即時共有など）、当日の責任者間情報共有（携帯電話メール「らくらく連絡網」利用な

ど)は次回課題。

4. 学園祭一常盤祭 11月第1土・日曜日との同時開催について

- ①HCDの1週間前に行われる学園祭との同時開催の意見が少なからずある。教室、ホール、食堂は学園祭では使用しないので、物理的には同時開催可能。先生方や学生も両方に参加しやすいという意見であるが、
- ②卒業生にとって何回かのHCD独立実施の後に、同時実施を考えるのが現実的と思われる。(学生のHCDへの協力が難しくなる等の問題有)

5. キャパシティ問題

- ①各種講演会参加者については、今回の800人を大きく超えても問題無。
- ②懇親パーティーについて、第一食堂は今回534名が適度という判断と、テーブルを小さくして600~800名は可能と言う判断がある。
- ③それ以上の懇親パーティー参加者には、第二食堂500名、大会館2階200名、3階100名と言う分散会場になるので、卒業〇〇周年、〇〇先生を囲む会、運動部・文化部同窓会というような対象を絞った集まりの懇親パーティーを分散実施するという事も考えられる。



受付風景



レクチャーコンサート



懇親会



基調講演会



米屋先生講演会



基調講演会